

3月8日(日)のてがたん下見および14日(土)に予定していたてがたんは、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となりました。3月7日(土)に行った予備調査の結果をまとめましたので、ご覧ください。次回4月のてがたんも、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となります。

3月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→釣り堀入り口→手賀沼遊歩道→手賀大橋→市民農園→滝下広場
- 観察日時と天気：2020年3月14日(土) 13:00～15:00 曇り
- 鳥博職員： 1人 (齊藤安行)

観察した生き物の記録

【鳥類】

キジ科：キジ／カモ科：マガモ、カルガモ、コガモ／カイツブリ科：カイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／クイナ科：バン、オオバン／カモメ科：セグロカモメ／ミサゴ科：ミサゴ／タカ科：トビ、チュウヒ／カワセミ科：カワセミ／キツツキ科：コゲラ／モズ科：モズ／カラス科：ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ツグミ、ジョウビタキ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ／アトリ科：カワラヒワ、ベニマシコ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン

(外来種や家禽) カモ科：コブハクチョウ、ハト科：ドバト

【魚】

ギンブナ(死体)、コイ

【昆虫】

コウチュウ目：カブトムシ(幼虫)／ハエ目：ユスリカの仲間／チョウ目：チャミノガ(幼虫)

【その他節足動物】

ダンゴムシの仲間

【草の花】

トクサ科：スギナ(胞子嚢穂=ツクシ)／ヒガンバナ科：ラッパズイセン／キンポウゲ科：ケキツネノボタン／マメ科：ヤハズエンドウ／アブラナ科：ナズナ、タネツケバナ／ナデシコ科：オランダミミナグサ、コハコベ／オオバコ科：オオイヌノフグリ／シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ／キク科：ノボロギク、オニノゲシ、ノゲシ、セイヨウタンポポ

【木の花】…引用符‘ ’内は、栽培品種名

モクレン科：ハクモクレン、コブシ／バラ科：‘ジュウガツザクラ’、‘ソメイヨシノ’、ウメ、ユキヤナギ／ヤナギ科：シダレヤナギ、マルバヤナギ／モッコク科：ヒサカキ／ツバキ科：ヤブツバキ、‘たちかんツバキ’

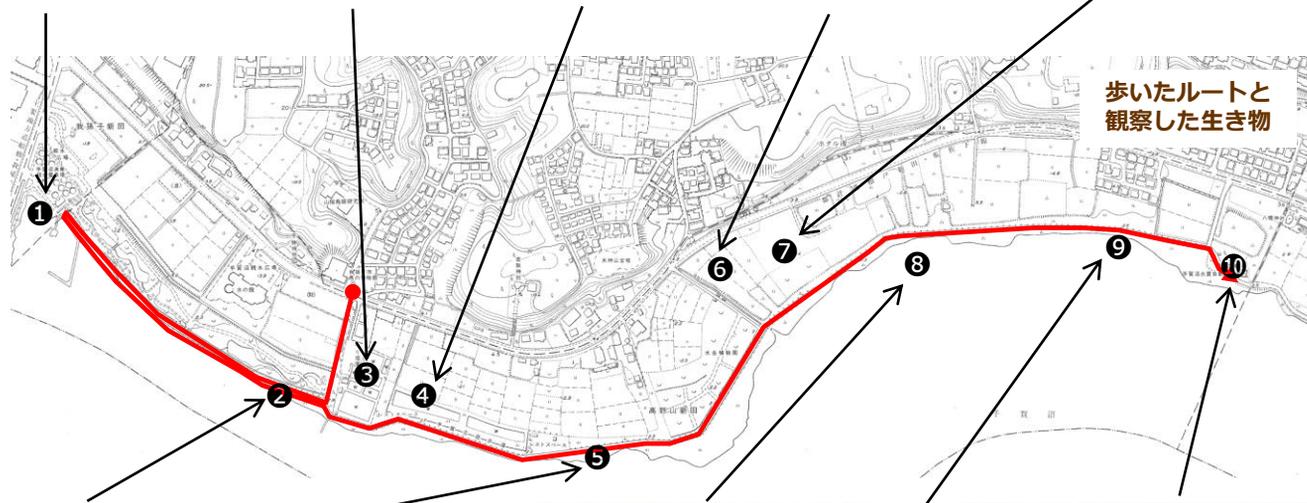
観察した生き物の記録

今回のてがたんのテーマは「鳥帰る」でした。繁殖地へ旅立つ前の冬鳥をさがそうという試みでした。コガモ、ユリカモメ、タシギ、オオジュリン、アオジなどの冬鳥は見られましたが、その一部はすでに北方の繁殖地へ向けて旅立ったためか、大きな群れは見られませんでした。

例年より早く咲いた手賀沼沿いの‘カワツザクラ’には、早速ヒヨドリが吸蜜に訪れていました。また、ハシボソガラスの巣材運びやつがいで活動するムクドリなど、鳥たちの繁殖活動も見られました。



① 頭部の羽毛が黒くなりかけたオオジュリンのオス
③ 釣り堀の上を飛ぶユリカモメ
④ つがいで行動するムクドリ
⑥ 足元から飛び出したタシギ
⑦ 上空を群れで飛び去ったミヤマガラス



歩いたルートと観察した生き物



② ‘カワツザクラ’の花蜜を吸うヒヨドリ
⑤ 切り株の中のカブトムシの幼虫
⑧ 杭の上で休息するコガモ
⑨ 巣材（羽毛）を運ぶハシボソガラス
⑩ 路上で餌を採るアオジ

今月の鳥 マガン カモ目カモ科

今年の冬、手賀沼に珍しくマガンが飛来しました。かつては、手賀沼とその近くの和田沼にマガンの大群が渡来し越冬していた記録があります。しかし戦後、関東平野に人口が集中し開発が進むにつれ、マガンの越冬は見られなくなりました。

環境省のガンカモ類の生息調査報告書によると、2017年には20万羽を超えるマガンが観察され、その9割以上が宮城県の伊豆沼とその周辺の沼に集中しています。越冬個体の一極集中は、感染症リスクの拡大や農業被害など、さまざまな問題を引き起こします。

手賀沼へのマガンの飛来が、関東平野の越冬地復活のきざしになればいいですね。



手賀沼に飛来したマガン(2019.11.20)